

<b>【科目名】</b> 言語発達障害学各論 I (MR・自閉症)				<b>【担当教員】</b> 鏡 昭子					
<b>【授業区分】</b> 専門分野 (言語聴覚障害学)		<b>【授業コード】</b> 5-29-1115-0-1		(メールアドレス)					
<b>【開講時期】</b> 3 年次 前期		<b>【選択必修】</b> 必修		(オフィスアワー)					
<b>【単位数】</b> 2 単位		<b>【コマ数】</b> 15 コマ							
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) (受講のルールに関わる情報・予備知識) グループ発表内容については、当日 (発表) までまとめて、学年人数分をコピーし提出すること。									
<b>【講義概要】</b> (目的) 言語発達障害を引き起こす原因のうち、知的障害や広汎性発達障害について学ぶ。特に広汎性発達障害には、自閉性障害、ADHD、LD など理解しがたい障害が含まれる。これらについて、障害の性質、診断基準、評価方法、訓練目標、訓練方法について学ぶとともに、発達障害児を抱える家族、兄弟、社会集団についても学習する。 (方法) 知的障害や広汎性発達障害について基本的事項を講義によって学習し、VTRを参照しながら症状を確認していく。									
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> ・ 知的障害と広汎性発達障害について、原因と症状、対応のしかた、評価方法、訓練方法について学ぶ。 ・ 特に理解し難いといわれる広汎性発達障害についてはしっかり学習する。									
<b>【行動目標(SBO)】</b> ・ 知的障害と広汎性発達障害の概要を説明できる。 ・ 資料を読んだり映像を見ることで、障害児を人間として多方面からとらえる。 ・ 正しい評価の方法を身に付ける。									
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 言語発達障害学 (医歯薬出版)									
<b>【参考書】</b> 講義内で随時紹介する。									
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 講義内の発表、グループ発表、実技も含む総合的評価を行う。									
<b>【達成度評価】</b>		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		90						10	100 点
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

平成 26～28 年度入学者用

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	発達障害の分類	講義	発達障害にはどんな障害があるか調べておく	
2	発達障害支援システム	講義		
3	知的障害①	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
4	知的障害②	講義		
5	自閉症スペクトラム(自閉症)①	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
6	自閉症スペクトラム(自閉症)②	講義		
7	発達障害のサブタイプ(特異的言語発達障害)	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
8	発達障害のサブタイプ(学習障害)	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
9	発達障害のサブタイプ(聴覚障害)	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
10	評価の方法・目的	講義	正常発達を復習しておく	
11	知的障害の評価、指導目標	グループワーク	正常発達の資料を準備しておく	
12	知的障害の言語訓練	講義		
13	自閉症スペクトラムの評価、指導目標	グループワーク		
14	自閉症スペクトラムの言語訓練	講義		
15	まとめ	講義		

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。